垂水市立垂水中央中学校　第１学年

【授業実践のポイント】

① 個に関する手立てとして，ＩＣＴ機器を活用し，自分の考えを構築したり多様な考えに触れたりすることができるよう工夫した。
② 対話的な活動を充実させる手立てとして，グループで出た意見をＩＣＴ機器を活用してグルーピングし，全体での発表につなげられるようにした。
③ 振り返りに関する手立てとして，社会（学校）生活に関する事前アンケート結果を示し，道徳的価値に対する自分の考えを広げたり，深めたりする場を設定した。

１　主題名　「よりよい社会のために」［Ｃ（12）　社会参画，公共の精神］

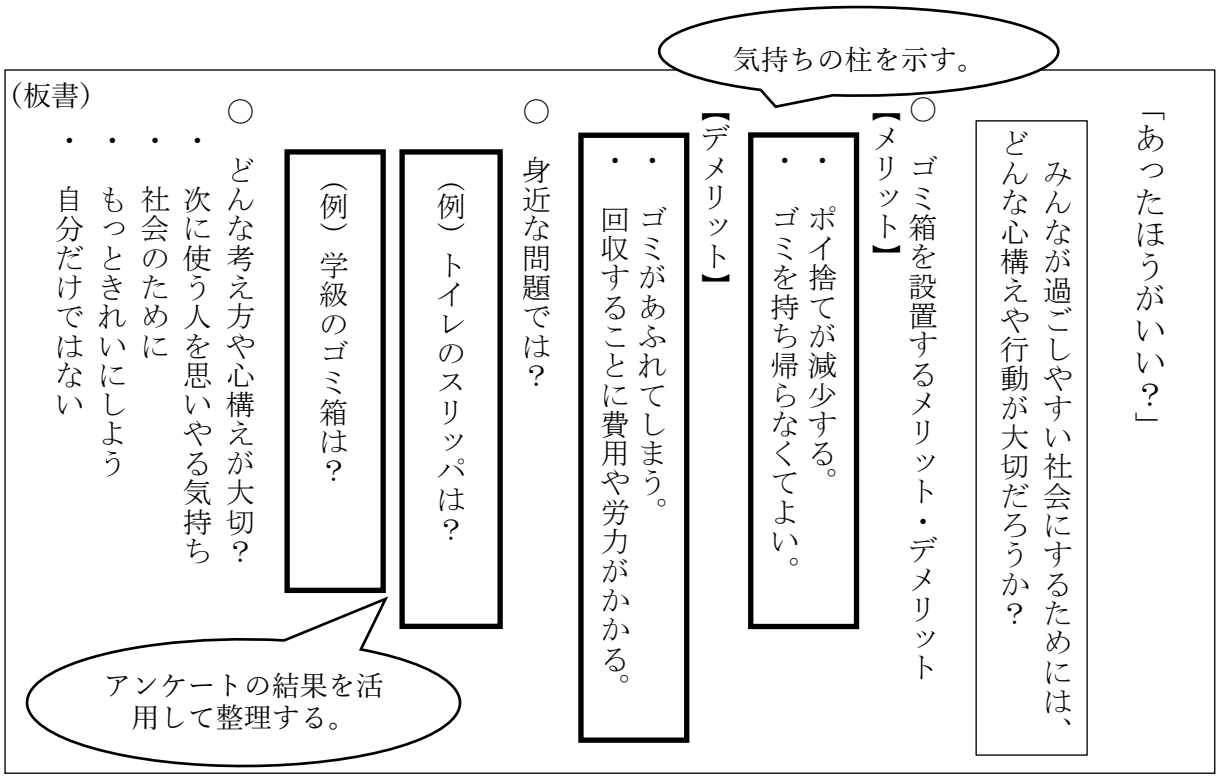
(1)　教材名　「あったほうがいい？」（日本文教出版「中学道徳　あすを生きる１」）

(2)　本時のねらい

身近なごみ問題について考え，話し合うことを通して，社会に尽くす公共の精神について深く考え，よりよい社会を築いていこうとする態度を育てる。

２　授業の展開

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	１　写真を見て，何が問題点なのかを考える。 みんなが過ごしやすい社会にするためには，どんな心構えや行動が大切だろうか。 ２　「あったほうがいい？」の範読を聞く。	５分	○　富士山が見えるコンビニエンスストアの現在の状況の写真を提示し，ゴミ問題について確認する。
展開	３　三つの立場（置く，置かない，迷う）から自分の考えを選択し，意見を交流する。 Ｔ　あなただったら街中にゴミ箱を設置しますか。 ４　ゴミ問題とその他の問題を解決するために共通する大切な考え方や心構えについて考える。 Ｔ　みんなが過ごしやすい社会にするには，どんな心構えや行動が大切でしょうか。	20分 15分	○　言語化することが難しい生徒のために，「気持ち柱」を使用し，考えを示させる。 ○　多様な考えに触れられるように「Microsoft Whiteboard」を使用し，考えを共有させる。 ○　ゴミ箱設置の是非や他の問題の解決策の根底にある考えに気付かせるため，「Microsoft Whiteboard」を見返すよう促す。
終末	５　考え方や心構えを基に自分が実践できそうなことを考える。 Ｔ　これから，あなたが実践できそうなことは何ですか。 ６　教師の説話を聞く。	10分	○　身近な問題について，具体的な事例を基に考え，意欲化を図る。



導入の場面では，富士山の観光とマナーの問題を取り上げ，ねらいにつなげ，問題意識を高める工夫をした。（①）

展開の場面では，「Whiteboard」を用いて，思考を整理したり，多様な考えに触れたりできる工夫をした。（①②）

振り返りの場面で，身近な学校生活の問題を提示することで，実践意欲を高める工夫をした。（③）

３　実践を終えて

(1)　成果

ア　ＩＣＴ機器を効果的に活用することで，自分の考えを構築したり多様な考えに触れたりしながら，考えを広げ深めることができた。

イ　話題に関する出来事や身近な問題を提示することで，思考を途切れさせることなくねらいとする道徳的価値を捉えさせたり，追求させたりすることができた。

ウ　導入でＩＣＴ機器を活用して問題意識を高め，終末の振り返りを通して実践的意欲を高めるなど，自分自身の問題として捉えさせることができた。

エ　写真資料や事前アンケート結果を提示したり，思考を促す発問をしたりすること，グループで活発に考えを交流することができた。

(2)　課題

ア　ごみ箱を設置する，しないの議論は活発ではあったが，その背景を明確にさせ，より多様で説得力のある意見をもたせるような発問の工夫を行う必要がある。

イ　生徒の思考をより広げ深めるために，生徒の実態を踏まえながら効果的なＩＣＴ機器の使用場面や方法を更に工夫していく必要がある。